

県北支部ナイトセミナーが9月10日(金)18時30分に開催されました。昨年同様COVID感染拡大防止のためWebで行われ、平日開催でしたが41名が参加されました。テーマは『被ばく管理』で県北支部5つの施設から線量管理、職業被ばく管理など自施設の紹介や運用方法、課題点を発表されていました。

医療法施行規則改正により放射線診療従事者に対する診療用放射線の安全利用のための職員研修の実施、放射線診療を受ける者の当該放射線による被ばく線量の管理及び記録その他の診療用放射線の安全利用のための方策の実施等が改正になりました。改正内容の職員研修の実施内容、研修参加率を上げるための工夫を各病院が発表していました。被ばく線量の記録はモダリティごとに記録項目を決め、線量をRISに入力して運用を行っている施設もありました。また一般撮影、CT、透視、IVR、RI等の線量をDRLs2020と比較検討している施設も多く、DRLs2020と比較して線量が高ければ線量を低減する検討が必要で、比較した線量が低かった場合は、画質の担保が適切かを検討する必要があるとのことだった。

電離放射線障害防止規則の改正により放射線業務従事者の眼の水晶体に受ける等価線量限度の引き下げ等が改正されました。各施設でポケット線量計の管理や使用方法(不均等被ばくの測定)、線量計を校正に出す時の運用方法、データ管理を紹介していました。またビジョンバッジ着用位置(方向依存性を考慮)やビジョンバッジを医師に着用してもらうための説明や運用法を発表されていた。

発表後のディスカッションはWeb開催ということで心配されましたが、チャットを利用して活発な意見交換が行われました。今回のセミナーで学んだことを日常業務に活かしていきたいです。また開催様式をWebにしたことで中央支部からの参加もあり非常によかったと感じました。

文責 熊谷